

保育者養成課程の学外実習における保護者に関する経験の頻度 —保護者とのコミュニケーションスキル育成への手がかりとして—

石田 開・田中 まさ子

Prevalence of trainees' experiences involving parents during practice teaching at a kindergarten and nursery training at a day-care center: towards fostering communication skills with parents

Hiraku Ishida Masako Tanaka

Summary

Questionnaire surveys aimed at students of a two-year college who had been in the training to be a childcare worker were conducted. The following items were involved in the questionnaire which asked about their experiences involving parents of children during trainings at kindergartens or child-care centers; how often they had experienced each of several types of contacts with parents, how often they had been provided with some information about parents by the childcare workers who had been training them, what kind of experiences with parents had been encouraged by the childcare workers, and whether the kindergartens or the day-care centers had offered events or services involving parents' visits to the facilities. The result showed that the most trainees had experienced greeting parents on children's commuting to or from the facilities and that close communications such as talking with parents and receiving some information on parents from childcare workers occurred with relatively low frequencies. While about half of trainees had been encouraged by their trainers to greet parents, the other types of communication had been seldom invited. Additionally the prevalence of trainees' experiences with parents is discussed in relation to encouragement by their trainers and events or services involving parents.

Key words : training of childcare workers, practice teaching, nursery training, communication with parents

1. 目的

保育者に求められる、あるいは保育者養成において習得が望まれる知識や技能は多岐に渡る。一義的には、子どもへの適切なかかわりのための諸能力がまず必要とされようが、それに加えて、近年重要性が増しているのが、保育所および幼稚園を利用する保護者への対応に係る能力であろう。保育所については、平成21年度から適用が始まっている、新しい「保育所保育指針」(厚生労働省)において、「保護者に対する支援」が1章を割いて明記されている(第6章)他、「保育所の社会的責任」として、保護者や地域社会に対してその保育の内容を適切に説明するべきこと

が定められており（第1章「総則」第4節）、指針改正の要点の1つとなっている¹⁾。一方で、幼稚園においては、やはり平成21年から施行されている「幼稚園教育要領」（文部科学省）において、子どもにとって最も影響の大きい環境因である親の安定を図ることが、子どもの健やかな育ちに資するという理由から、子育て支援がその役割の1つであることが明記されている（幼稚園教育要領解説 p. 63）²⁾。

また、保育指針の改正に対応する形で、保育士養成課程が改正され、平成23年度より適用される予定となっているが、そこにおいても、いくつかの教科目において、保護者とのかかわりに関する内容が新規に盛り込まれたり拡充されたりしており、また、保育所における保護者支援のための科目が新設されるなど、保育者の養成課程においても、保護者支援に関する知識、技能の習得が、より求められることとなった³⁾。

以上のような保育と保育者養成とをめぐる現状に鑑み、本研究では、保育者養成課程において保護者とのかかわりを最も直接的、体験的に学ぶ機会と考えられる、幼稚園や保育所における実習において、実習生と保護者とのかかわりがどの程度持たれているのかについて実態を調べた。加えて、どのような状況でかかわりの生起が多くなっているのかについて分析し、実習現場に求められる環境や指導のあり方についても検討した。

2. 方法

対象 岐阜県内の私立短期大学（2年課程）1校の保育者養成課程に在籍する学生を対象として質問紙調査を行った。対象者は2009年度に入学した学生で、調査は、当該の学生が在籍中、保育士資格および幼稚園教諭二種免許の取得のために、保育所および幼稚園においてそれぞれ2回、合計で4回行った、各実習の後に行われた。調査対象とした実習機会と各調査の実施時期および対象者数を表1に示した。また、調査対象となった学外実習における実習先施設の所在地域と施

表1 調査対象となった学外実習

	幼稚園1	幼稚園2	保育所1	保育所2
課程	幼稚園教諭	幼稚園教諭	保育士	保育士
実施時期※1	1年次11月	2年次5月	1年次2月	2年次8-9月
標準実施日数※2	10日	10日	11日	12日
実施した学生数※1	101	100	100	82
調査時期	2009年11月	2010年5月	2010年3月	2010年9月
調査対象者数※3	88	92	92	67

※1 各実習の実施時期については上記のとおりであるが、学修状況や体調など、個別の事情により他の期間に実施した学生もいる。各実習について、通常の時期以外に実習を行った学生については、実施した学生には含めず、分析対象外とした。

※2 実習の実施日数については、幼稚園教諭、保育士それぞれの養成課程において、前者は通常20日間、後者は1回目と2回目とでそれぞれ概ね10日間と定められているが、実習施設個別の事情等により若干の日数の増減がある。

※3 調査は各実習の期間終了後間もない時点の授業等、学生の集まる機会に実施したため、それらに欠席した学生は対象となっていない。

表2 調査対象となった学外実習における実習施設の所在地域と施設種別

実習施設の属性	実習								全実習		
	幼稚園1		幼稚園2		保育所1		保育所2				
所在地域	岐阜	77	87.5%	79	85.9%	85	92.4%	52	77.6%	293	86.4%
	愛知	4	4.5%	2	2.2%	1	1.1%	0	0.0%	7	2.1%
	滋賀	1	1.1%	1	1.1%	1	1.1%	0	0.0%	3	0.9%
	富山	2	2.3%	2	2.2%	2	2.2%	2	3.0%	8	2.4%
	不明※1	4	4.5%	8	8.7%	3	3.3%	13	19.4%	28	8.3%
	N	88	100.0%	92	100.0%	92	100.0%	67	100.0%	339	100.0%
施設種別	私立幼稚園	50	56.8%	62	67.4%	—	—	—	—	112	33.0%
	公立幼稚園	28	31.8%	25	27.2%	—	—	—	—	53	15.6%
	私立保育所	—	—	—	—	43	46.7%	31	46.3%	74	21.8%
	公立保育所	—	—	—	—	40	43.5%	27	40.3%	67	19.8%
	私立幼保一体施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	4.5%	0	0.0%
	公立幼保一体施設	2	2.3%	3	3.3%	1	1.1%	1	1.5%	7	2.1%
	不明※2	8	9.1%	2	2.2%	8	8.7%	8	7.5%	26	7.7%
	N	88	100.0%	92	100.0%	92	100.0%	67	100.0%	339	100.0%

※1 未記入による欠測

※2 「わからない」を選択、または実習種別と矛盾する回答（幼稚園実習で保育所を選択するなど）

施設種別の内訳は、質問紙に含まれた後述の項目への回答結果から、表2のとおりであった。

手続き 調査は、各実習の実施期間のしばらく後、授業やオリエンテーション等、学生が教室に集まる機会に実施された。対象者に対して一斉に質問紙を配付し、調査の目的（学外実習における乳幼児の保護者に関する経験についての調査）と、調査の位置づけ（無記名で行われ、回答が成績等に影響するものではない）とを説明した後、その場において10分程度で回答を記入してもらい、回収した。

質問項目の内容は、以下の通りであった：(1)基本情報：実習種別、実習先施設の種別、実習先施設の所在地域、(2)保護者との接触などの頻度（「ほぼ毎日／ときどき／ない」からの強制選択）：
 ①登園あるいは②降園時の保護者とのあいさつ、③登園あるいは④降園時の保護者との話、④登降園時以外の保護者との話、⑤保育者と保護者との話を傍らで聞くこと、⑥保育者から保護者に関する話を聞くこと、⑦保育者と保護者との連絡帳を見せてもらうこと、⑧施設における会議に参加して保護者情報に触れること、⑨未就園時の保護者との話、(3)就園児の保護者の施設来訪頻度に係る実習先施設の状況：①その施設で主要な通園手段（保護者送迎／施設によるバス送迎）、②実習期間中の保護者参加行事の有無、(4)未就園児の保護者の施設来訪頻度に係る実習先施設の状況：①在籍児以外への園庭開放の有無、②子育て支援センター併設の有無、(5)実習中に保護者とのかわりに関連して施設側から勧奨されたこと（上記(2)の①②、③④、⑤～⑨のそれぞれについて勧奨の有無強制選択）、(6)保護者との①あいさつや②話を、実習生と保護者とどちらが始動したのか、(7)会話の内容やそこからの学び。ただし、(7)については今回の報告には含めない。

3. 結果

今回行われた4回の調査は、当該課程の同じクラスの学生を対象として行われたものであるが、無記名で調査間の個人連結は不可能であるので、結果については、質問項目の内容、実習機会ごとに集計、分析を行った。

①実習中の保護者に関する諸々の経験の頻度——項目(2)

保護者とのコミュニケーションや施設の先生からの保護者情報の取得など、実習において持った保護者に係る諸経験のそれぞれについて、「ほぼ毎日／ときどき／ない」から選択させたところ、その分布は表3のようになった。

4回の実習のいずれにおいても、園児の登園時については60%、降園時については半数を超える学生が、「ほぼ毎日」、保護者に対してあいさつをしており、「ときどき」も加えると、登降園時のあいさつは概して90%程度あるいはそれを超える学生が行っていた。一方で、登降園時に保護者と話した経験については、「ほぼ毎日」そのような機会を持った学生は、実習機会にもよるが、数%から10%程度にとどまっており、いずれの実習においても、半数を超える学生が「ない」と答えていた。また、「ほぼ毎日」あるいは「ときどき」、園児の登園、降園時以外に保護者と話した学生は、実習機会によって10から30%程度であった。

質問紙には、実習施設の先生（幼稚園教諭あるいは保育士）を通じた保護者に関する情報への曝露についての項目も含まれていた。先生と保護者とが話しているのを聞くことは、幼稚園における1度目の実習（幼稚園1）、2度目の実習（幼稚園2）、保育所における1度目の実習（保育所1）、2度目の実習（保育所2）のそれぞれで、31%、13%、39%、21%が「ほぼ毎日」、46%、52%、49%、54%が「ときどき」経験しており、実習機会により異なるが、平均して7割を超える学生が実習中に経験していた。先生から保護者についての話を聞くことは、「ほぼ毎日」経験した学生は少ないが、「ときどき」も含めると、4から5割が経験していた。一方、実習において、施設と保護者との情報交換媒体である「連絡帳」を閲覧した学生は少なく、やはり実習機会により異なるが、「ほぼ毎日」「ときどき」を合わせて数%から2割程度であった。施設で行われるケース会議や職員会議で保護者の情報に触れる経験も同様に少なかった。

また、実習中に、就園前の乳幼児の保護者が施設に訪れた際に、それら保護者と話した経験は、

表3 実習における保護者に関する諸経験の頻度

保護者に関する経験	頻度 ※1	実習									
		幼稚園1		幼稚園2		保育所1		保育所2		全実習	
子どもの登園時に園児の保護者とあいさつをした	ほぼ毎日	54	62.1%	56	60.9%	66	74.2%	56	83.6%	232	69.3%
	ときどき	26	29.9%	26	28.3%	21	23.6%	9	13.4%	82	24.5%
	ない	7	8.0%	10	10.9%	2	2.2%	2	3.0%	21	6.3%
	N	87	100.0%	92	100.0%	89	100.0%	67	100.0%	335	100.0%
子どもの降園時に園児の保護者とあいさつをした	ほぼ毎日	44	50.6%	55	60.4%	58	65.2%	43	65.2%	200	60.1%
	ときどき	36	41.4%	32	35.2%	27	30.3%	20	30.3%	115	34.5%
	ない	7	8.0%	4	4.4%	4	4.5%	3	4.5%	18	5.4%
	N	87	100.0%	91	100.0%	89	100.0%	66	100.0%	333	100.0%
子どもの登園時に園児の保護者と話をする機会があった	ほぼ毎日	8	10.5%	4	5.5%	8	10.7%	4	6.9%	24	8.5%
	ときどき	13	17.1%	24	32.9%	29	38.7%	21	36.2%	87	30.9%
	ない	55	72.4%	45	61.6%	38	50.7%	33	56.9%	171	60.6%
	N	76	100.0%	73	100.0%	75	100.0%	58	100.0%	282	100.0%
子どもの降園時に園児の保護者と話をする機会があった	ほぼ毎日	8	10.4%	7	9.9%	7	9.1%	3	5.2%	25	8.8%
	ときどき	25	32.5%	21	29.6%	27	35.1%	17	29.3%	90	31.8%
	ない	44	57.1%	43	60.6%	43	55.8%	38	65.5%	168	59.4%
	N	77	100.0%	71	100.0%	77	100.0%	58	100.0%	283	100.0%
子どもの登園・降園時以外に園児の保護者と話をする機会があった	ほぼ毎日	2	2.4%	1	1.1%	1	1.1%	1	1.5%	5	1.5%
	ときどき	19	22.4%	25	28.7%	10	11.2%	9	13.6%	63	19.3%
	ない	64	75.3%	61	70.1%	78	87.6%	56	84.8%	259	79.2%
	N	85	100.0%	87	100.0%	89	100.0%	66	100.0%	327	100.0%

数%から十数%にとどまっていた。

②保護者の施設への来訪頻度に係る要素——項目(3)(4)

質問紙では、就園児（当該の施設に在籍している乳幼児）の保護者が当該施設に来訪する頻度にかかわると思われる施設の状況についても問うた。結果を表4に示した。まず、就園児の通園方法について、当該施設に置いて、保護者が施設まで送迎するのと、施設が運行するバスによる送迎とで、どちらが多いかを問うたところ、幼稚園（1と2）においては、回答者のうち、30%あまりが保護者による送迎、60%あまりが施設によるバス送迎と答え、数%については「わからない」との回答であった。保育所（1と2）においては、保護者による送迎が8割前後を占め、バスによる送迎は1から2割であった他、「わからない」とした回答がやはり数%あった。また、実習期間中に、就園児の保護者が施設に来る行事があったかどうかについては、「あった」とした回答者が保育所2において21%であり、その他の実習機会では60%前後であった。

一方で、幼稚園、保育所においては、子育て支援センターの併設や園庭開放の実施など、低年齢児など就園していない乳幼児とその保護者とがその施設を来訪する機会がある。実習期間中に実習施設が園庭開放を実施していたと答えた回答者は、実習機会のそれぞれにおいて50ないしは60%程度であり、子育て支援センターの併設については、全実習を通じて20%前後の回答者が実習施設においてそれが行われていたと回答した。ただし、これらについては「わからない」との

表3（続き） 実習における保護者に関する諸経験の頻度

保護者に関する経験	頻度 ※1	実習									
		幼稚園1		幼稚園2		保育所1		保育所2		全実習	
園の先生と保護者とが話しているのを聞く機会があった	ほぼ毎日	27	31.0%	12	13.2%	35	39.3%	14	20.9%	88	26.3%
	ときどき	40	46.0%	47	51.6%	44	49.4%	36	53.7%	167	50.0%
	ない	20	23.0%	32	35.2%	10	11.2%	17	25.4%	79	23.7%
	N	87	100.0%	91	100.0%	89	100.0%	67	100.0%	334	100.0%
園の先生から保護者について話を聞く機会があった	ほぼ毎日	2	2.3%	0	0.0%	7	8.0%	6	9.1%	15	4.5%
	ときどき	38	44.2%	44	47.8%	46	52.9%	21	31.8%	149	45.0%
	ない	46	53.5%	48	52.2%	34	39.1%	39	59.1%	167	50.5%
	N	86	100.0%	92	100.0%	87	100.0%	66	100.0%	331	100.0%
先生に、園と保護者との連絡帳を見せていただく機会があった	ほぼ毎日	2	2.3%	2	2.2%	3	3.3%	4	6.0%	11	3.3%
	ときどき	3	3.4%	7	7.6%	15	16.5%	11	16.4%	36	10.7%
	ない	83	94.3%	83	90.2%	73	80.2%	52	77.6%	291	86.1%
	N	88	100.0%	92	100.0%	91	100.0%	67	100.0%	338	100.0%
ケース会議や職員会議に参加して保護者の話を聞く機会があった	ほぼ毎日	2	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.5%	3	0.9%
	ときどき	4	4.5%	9	9.9%	0	0.0%	0	0.0%	13	3.9%
	ない	82	93.2%	82	90.1%	90	100.0%	65	98.5%	319	95.2%
	N	88	100.0%	91	100.0%	90	100.0%	66	100.0%	335	100.0%
未就園児の保護者と話す機会があった	ほぼ毎日	2	2.3%	1	1.1%	0	0.0%	2	3.0%	5	1.5%
	ときどき	11	12.5%	2	2.2%	11	12.1%	7	10.4%	31	9.2%
	ない	75	85.2%	89	96.7%	80	87.9%	58	86.6%	302	89.3%
	N	88	100.0%	92	100.0%	91	100.0%	67	100.0%	338	100.0%

※1 自由記述や他の質問への回答とこれらの項目への回答とが論理的に整合しない回答については、項目ごとに欠測扱いとしたため、項目ごとにNが異なっている。

例) 登園時の話、降園時の話について「ない」と回答しながら、話の始動者がだれであったかを問う後出の項目に対して「保護者から」などと回答している。

表4 保護者の施設来訪機会に係る施設の状況

保護者の 施設来訪機会	実習								全実習	
	幼稚園1		幼稚園2		保育所1		保育所2			
最も多い通園形態										
保護者送迎	29	33.0%	29	31.5%	72	78.3%	58	87.9%	188	55.6%
施設バス送迎	53	60.2%	58	63.0%	17	18.5%	6	9.1%	134	39.6%
わからない	6	6.8% ※1	5	5.4%	3	3.3%	2	3.0%	16	4.7%
N	88	100.0%	92	100.0%	92	100.0%	66	100.0%	338	100.0%
実習期間中の保護者来訪行事										
あった	55	62.5%	56	60.9%	53	57.6%	14	20.9%	178	52.5%
なかった	31	35.2%	35	38.0%	39	42.4%	51	76.1%	156	46.0%
わからない	2	2.3%	1	1.1%	0	0.0%	2	3.0%	5	1.5%
N	88	100.0%	92	100.0%	92	100.0%	67	100.0%	339	100.0%
実習期間中の園庭開放										
行っていた	49	55.7%	56	60.9%	44	47.8%	40	59.7%	189	55.8%
行っていなかった	15	17.0%	19	20.7%	26	28.3%	13	19.4%	73	21.5%
わからない	24	27.3%	17	18.5%	22	23.9%	14	20.9%	77	22.7%
N	88	100.0%	92	100.0%	92	100.0%	67	100.0%	339	100.0%
子育て支援センター										
あった	17	19.3%	16	17.4%	19	20.7%	18	26.9%	70	20.6%
なかった	30	34.1%	34	37.0%	36	39.1%	18	26.9%	118	34.8%
わからない	41	46.6% ※1	42	45.7%	37	40.2%	31	46.3%	151	44.5%
N	88	100.0%	92	100.0%	92	100.0%	67	100.0%	339	100.0%

※1 これらのうち1名は無回答

回答も2から5割程度に上り、正確な実施率は不明である。

③保護者に係る体験についての施設からの勧奨——項目(5)

表5は、実習中における保護者に関する経験のそれぞれについて、施設から勧められたかどうかをまとめたものである。登降園時の保護者とのあいさつについては、4から6割が、勧めがあったと回答したが、特に何も勧められたことが無いとした回答も40%台あるいは50%台に上っており、あいさつ以外のコミュニケーション等を勧められたという回答はわずかであった。

④保護者とのあいさつや話は誰が始動したか——項目(6)

就園児の保護者とのあいさつや話を経験した場合に、それを始動したのがだれであったかを問うた（自分から／保護者から／どちらともなく／していない、最初の3つの選択肢については相互に複数選択可）。表6に示した回答から、あいさつについては「自分から」行ったという学生は8割前後に上り最も多く、「保護者から」「どちらともなく」という回答も数%から30%程度あった。保護者との話については、「話をしていない」との回答が5割と多かったが、話をした回答者中における生起率としては、実習機会によって、「自分から」話をしたのは22から38%で、保護者からは35から45%と、保護者からの始動もある程度多かった。

表5 保護者に関する経験について園からの勧めがあったか

保護者に関する経験	実習								全実習	
	幼稚園1		幼稚園2		保育所1		保育所2			
登園や降園時の保護者へのあいさつ	41	47.7%	42	50.0%	52	60.5%	27	42.9%	162	50.8%
登園や降園時の保護者との話	2	2.3%	4	4.8%	6	7.0%	1	1.6%	13	4.1%
登園や降園時以外の保護者との話	1	1.2%	1	1.2%	2	2.3%	0	0.0%	4	1.3%
先生と保護者との話を聞くこと	4	4.7%	1	1.2%	4	4.7%	2	3.2%	11	3.4%
未就園児の保護者との話	1	1.2%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	2	0.6%
その他	0	0.0%	2	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%
特に勧められていない	42	48.8%	39	46.4%	34	39.5%	36	57.1%	151	47.3%
<i>N</i>	86	100.0%	84	100.0%	86	100.0%	63	100.0%	319	100.0%

表6 保護者との登降園時のコミュニケーションの始動者

コミュニケーションの始動者	実習								全実習	
	幼稚園1		幼稚園2		保育所1		保育所2			
登降園時のあいさつ										
自分から	67	77.0%	74	81.3%	70	77.8%	51	77.3%	262	78.4%
保護者から	18	20.7%	3	3.3%	11	12.2%	3	4.5%	35	10.5%
どちらともなく	23	26.4%	21	23.1%	27	30.0%	14	21.2%	85	25.4%
していない	1	1.1%	1	1.1%	1	1.1%	1	1.5%	4	1.2%
<i>N</i>	87	100.0%	91	100.0%	90	100.0%	66	100.0%	334	100.0%
登降園時の話										
自分から	13	17.3%	12	16.9%	11	14.7%	11	19.0%	47	16.8%
保護者から	18	24.0%	14	19.7%	23	30.7%	10	17.2%	65	23.3%
どちらともなく	12	16.0%	13	18.3%	17	22.7%	8	13.8%	50	17.9%
していない	39	52.0%	35	49.3%	32	42.7%	31	53.4%	137	49.1%
<i>N</i>	75	100.0%	71	100.0%	75	100.0%	58	100.0%	279	100.0%

⑤保護者とのあいさつについて施設からの勧奨有無とその経験頻度

上述のように、保護者に係る経験について、施設からの勧めが多かったのは、園児の登降園時の保護者へのあいさつであった。施設からの勧奨の有無とあいさつの経験頻度との関係を表7-1および7-2に示した。登園時、降園時のそれぞれで、実習機会ごとに、園からの勧奨有無によってあいさつの頻度が異なるかどうか、マン・ホイットニーの検定(両側)を実施した。結果として、幼稚園1の「降園時のあいさつ」($z=1.92, p<.10$)、保育所1の「登園時のあいさつ」($z=2.33, p<.05$)、保育所2の「降園時のあいさつ」($z=2.03, p<.05$)のそれぞれにおいて、

表 7-1 登降園時の保護者へのあいさつについての施設の勧奨と登園時のあいさつ頻度

登園や降園時の 保護者へのあいさつ	あいさつ 頻度	実習								全実習	
		幼稚園1		幼稚園2		保育所1		保育所2			
施設から 勧められた	ほぼ毎日	27	65.9%	23	54.8%	41	83.7%	24	88.9%	115	72.3%
	ときどき	13	31.7%	15	35.7%	8	16.3%	3	11.1%	39	24.5%
	ない	1	2.4%	4	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	5	3.1%
施設から 勧められていない	ほぼ毎日	25	56.8%	26	61.9%	21	61.8%	28	77.8%	100	64.1%
	ときどき	13	29.5%	10	23.8%	11	32.4%	6	16.7%	40	25.6%
	ない	6	13.6%	6	14.3%	2	5.9%	2	5.6%	16	10.3%

表 7-2 登降園時の保護者へのあいさつについての施設の勧奨と登園時のあいさつ頻度

登園や降園時の 保護者へのあいさつ	あいさつ 頻度	実習								全実習	
		幼稚園1		幼稚園2		保育所1		保育所2			
施設から 勧められた	ほぼ毎日	25	61.0%	24	57.1%	34	69.4%	21	77.8%	104	65.4%
	ときどき	14	34.1%	17	40.5%	14	28.6%	6	22.2%	51	32.1%
	ない	2	4.9%	1	2.4%	1	2.0%	0	0.0%	4	2.5%
施設から 勧められていない	ほぼ毎日	18	40.9%	26	63.4%	19	55.9%	19	54.3%	82	53.2%
	ときどき	21	47.7%	12	29.3%	12	35.3%	13	37.1%	58	37.7%
	ない	5	11.4%	3	7.3%	3	8.8%	3	8.6%	14	9.1%

施設からの勧めがあった場合の方がなかった場合に比べてあいさつをした頻度が高い傾向が見られたが、その他においてはあいさつの勧奨によるその経験頻度の有意な差は認められなかった ($z = 0.23-1.40$)。

⑥保護者の施設来訪機会と保護者とのコミュニケーション頻度

実習施設において最も多く見られる通園手段と、就園児の保護者に係る諸経験の頻度との関係を表 8-1 に示した。通園手段（保護者による送迎／施設によるバス送迎）による保護者に係る各経験頻度の違いについては、実習機会および経験の種類ごとに実施したマン・ホイットニーの検定の結果、幼稚園 1 の「登園時のあいさつ」 ($z = 3.30, p < .01$)、「登園時の話」 ($z = 3.96, p < .001$)、「降園時の話」 ($z = 2.25, p < .05$)、「登降園時以外の話」 ($z = 1.71, p < .10$)、幼稚園 2 の「登園時のあいさつ」 ($z = 4.60, p < .001$)、「登園時の話」 ($z = 3.71, p < .001$)、「降園時の話」 ($z = 2.90, p < .01$)、「先生と保護者との話を聞くこと」 ($z = 2.01, p < .05$)、保育所 1 の「降園時の話」 ($z = 2.37, p < .05$)、「先生と保護者との話を聞くこと」 ($z = 1.91, p < .10$)、保護者による送迎の場合の方が、それぞれの経験頻度が高かった。それら実習におけるその他の経験および、保育所 2 のすべての経験については、通園手段による頻度の有意な差は見られなかった。

実習中における保護者来訪を伴う行事の有無による保護者経験の違い（表 8-2）については、検定の結果、幼稚園 1 の「登降園時以外の話」で、行事があった場合の方がなかった場合に比べて、経験頻度が高い傾向にあった ($z = 1.75, p < .10$) 他は、幼稚園 2 における「登園時のあい

表 8-1 主な通園手段と保護者に係る諸経験の頻度

最も多い通園方法	保護者経験 頻度	実習				全実習	
		幼稚園1	幼稚園2	保育所1	保育所2		
子どもの登園時に園児の保護者とあいさつをした							
保護者 送迎	ほぼ毎日	25 86.2%	28 96.6%	53 76.8%	48 82.8%	154 83.2%	
	ときどき	4 13.8%	1 3.4%	15 21.7%	9 15.5%	29 15.7%	
	ない	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	1 1.7%	2 1.1%	
施設 バス送迎	ほぼ毎日	26 50.0%	26 44.8%	12 70.6%	5 83.3%	69 51.9%	
	ときどき	20 38.5%	22 37.9%	5 29.4%	0 0.0%	47 35.3%	
	ない	6 11.5%	10 17.2%	0 0.0%	1 16.7%	17 12.8%	
子どもの降園時に園児の保護者とあいさつをした							
保護者 送迎	ほぼ毎日	14 48.3%	21 72.4%	45 65.2%	38 66.7%	118 64.1%	
	ときどき	14 48.3%	8 27.6%	20 29.0%	18 31.6%	60 32.6%	
	ない	1 3.4%	0 0.0%	4 5.8%	1 1.8%	6 3.3%	
施設 バス送迎	ほぼ毎日	28 53.8%	32 56.1%	11 64.7%	5 83.3%	76 57.6%	
	ときどき	19 36.5%	21 36.8%	6 35.3%	0 0.0%	46 34.8%	
	ない	5 9.6%	4 7.0%	0 0.0%	1 16.7%	10 7.6%	
子どもの登園時に園児の保護者と話す機会があった							
保護者 送迎	ほぼ毎日	6 25.0%	3 12.0%	7 12.3%	4 8.2%	20 12.9%	
	ときどき	8 33.3%	14 56.0%	24 42.1%	17 34.7%	63 40.6%	
	ない	10 41.7%	8 32.0%	26 45.6%	28 57.1%	72 46.5%	
施設 バス送迎	ほぼ毎日	2 4.3%	1 2.3%	1 6.3%	0 0.0%	4 3.6%	
	ときどき	4 8.7%	9 20.5%	4 25.0%	2 33.3%	19 17.0%	
	ない	40 87.0%	34 77.3%	11 68.8%	4 66.7%	89 79.5%	
子どもの降園時に園児の保護者と話す機会があった							
保護者 送迎	ほぼ毎日	5 19.2%	5 20.8%	7 11.9%	3 6.1%	20 12.7%	
	ときどき	11 42.3%	10 41.7%	23 39.0%	15 30.6%	59 37.3%	
	ない	10 38.5%	9 37.5%	29 49.2%	31 63.3%	79 50.0%	
施設 バス送迎	ほぼ毎日	3 6.7%	2 4.7%	0 0.0%	0 0.0%	5 4.5%	
	ときどき	13 28.9%	10 23.3%	3 18.8%	2 33.3%	28 25.5%	
	ない	29 64.4%	31 72.1%	13 81.3%	4 66.7%	77 70.0%	
子どもの登園・降園時以外に園児の保護者と話す機会があった							
保護者 送迎	ほぼ毎日	1 3.7%	1 3.8%	1 1.4%	1 1.7%	4 2.2%	
	ときどき	9 33.3%	9 34.6%	7 10.1%	7 12.1%	32 17.8%	
	ない	17 63.0%	16 61.5%	61 88.4%	50 86.2%	144 80.0%	
施設 バス送迎	ほぼ毎日	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	
	ときどき	9 17.3%	14 25.0%	2 11.8%	1 16.7%	26 19.8%	
	ない	42 80.8%	42 75.0%	15 88.2%	5 83.3%	104 79.4%	
園の先生と保護者が話しているのを聞く機会があった							
保護者 送迎	ほぼ毎日	10 34.5%	7 24.1%	30 42.9%	13 22.4%	60 32.3%	
	ときどき	14 48.3%	15 51.7%	33 47.1%	30 51.7%	92 49.5%	
	ない	5 17.2%	7 24.1%	7 10.0%	15 25.9%	34 18.3%	
施設 バス送迎	ほぼ毎日	14 26.4%	4 7.0%	3 17.6%	1 16.7%	22 16.5%	
	ときどき	24 45.3%	31 54.4%	11 64.7%	3 50.0%	69 51.9%	
	ない	15 28.3%	22 38.6%	3 17.6%	2 33.3%	42 31.6%	

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$ (保護者による送迎>バス送迎)

さつ」($z = 2.16$, $p < .05$)、「降園時のあいさつ」($z = 1.93$, $p < .10$)、「登園時の話」($z = 2.15$, $p < .05$)、「降園時の話」($z = 1.83$, $p < .10$)では、保護者来訪を伴う行事のなかった方がそれらの経験頻度が高い傾向が見られた。

未就園児の保護者が施設を訪れる機会と関係する、施設における子育て支援センターの併設および未就園児に対する園庭開放の有無について、それらと未就園児の保護者と話した経験の頻度との関係(表9)を調べたところ、保護者の施設来訪機会の有無による、保護者との話の頻度との有意な違いは、いずれの実習機会においても見られなかった。

表 8-2 実習期間中の保護者来訪を伴う行事の有無と保護者に係る諸経験の頻度

保護者来園行事	保護者経験		実習				全実習				
	頻度		幼稚園1	幼稚園2	保育所1	保育所2					
子どもの登園時に園児の保護者とあいさつをした											
あった	ほぼ毎日	33	60.0%	29	51.8%	38	73.1%	11	78.6%	111	62.7%
	ときどき	16	29.1%	19	33.9%	13	25.0%	2	14.3%	50	28.2%
	ない	6	10.9%	8	14.3%	1	1.9%	1	7.1%	16	9.0%
なかった	ほぼ毎日	19	63.3%	26	74.3%	28	75.7%	43	84.3%	116	75.8%
	ときどき	10	33.3%	7	20.0%	8	21.6%	7	13.7%	32	20.9%
	ない	1	3.3%	2	5.7%	1	2.7%	1	2.0%	5	3.3%
子どもの降園時に園児の保護者とあいさつをした											
あった	ほぼ毎日	25	45.5%	29	52.7%	34	65.4%	11	84.6%	99	56.6%
	ときどき	25	45.5%	22	40.0%	16	30.8%	2	15.4%	65	37.1%
	ない	5	9.1%	4	7.3%	2	3.8%	0	0.0%	11	6.3%
なかった	ほぼ毎日	18	60.0%	25	71.4%	24	64.9%	31	60.8%	98	64.1%
	ときどき	10	33.3%	10	28.6%	11	29.7%	17	33.3%	48	31.4%
	ない	2	6.7%	0	0.0%	2	5.4%	3	5.9%	7	4.6%
子どもの登園時に園児の保護者と話す機会があった											
あった	ほぼ毎日	3	6.5%	1	2.3%	4	9.3%	1	8.3%	9	6.3%
	ときどき	8	17.4%	11	25.6%	20	46.5%	3	25.0%	42	29.2%
	ない	35	76.1%	31	72.1%	19	44.2%	8	66.7%	93	64.6%
なかった	ほぼ毎日	5	17.9%	3	10.3%	4	12.5%	2	4.5%	14	10.5%
	ときどき	3	10.7%	12	41.4%	9	28.1%	17	38.6%	41	30.8%
	ない	20	71.4%	14	48.3%	19	59.4%	25	56.8%	78	58.6%
子どもの降園時に園児の保護者と話す機会があった											
あった	ほぼ毎日	3	6.4%	3	7.0%	4	8.7%	1	8.3%	11	7.4%
	ときどき	15	31.9%	10	23.3%	18	39.1%	3	25.0%	46	31.1%
	ない	29	61.7%	30	69.8%	24	52.2%	8	66.7%	91	61.5%
なかった	ほぼ毎日	5	17.9%	4	14.8%	3	9.7%	2	4.5%	14	10.8%
	ときどき	8	28.6%	10	37.0%	9	29.0%	17	38.6%	44	33.8%
	ない	15	53.6%	13	48.1%	19	61.3%	25	56.8%	72	55.4%
子どもの登園・降園時以外に園児の保護者と話す機会があった											
あった	ほぼ毎日	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	2	1.2%
	ときどき	15	28.8%	16	30.2%	7	13.7%	3	21.4%	41	24.1%
	ない	36	69.2%	37	69.8%	44	86.3%	10	71.4%	127	74.7%
なかった	ほぼ毎日	1	3.2%	1	2.9%	1	2.6%	0	0.0%	3	1.9%
	ときどき	3	9.7%	9	26.5%	3	7.9%	6	11.8%	21	13.6%
	ない	27	87.1%	24	70.6%	34	89.5%	45	88.2%	130	84.4%
園の先生と保護者とが話しているのを聞く機会があった											
あった	ほぼ毎日	15	27.8%	6	10.9%	22	42.3%	3	21.4%	46	26.3%
	ときどき	27	50.0%	27	49.1%	22	42.3%	7	50.0%	83	47.4%
	ない	12	22.2%	22	40.0%	8	15.4%	4	28.6%	46	26.3%
なかった	ほぼ毎日	11	35.5%	6	17.1%	13	35.1%	11	21.6%	41	26.6%
	ときどき	13	41.9%	19	54.3%	22	59.5%	28	54.9%	82	53.2%
	ない	7	22.6%	10	28.6%	2	5.4%	12	23.5%	31	20.1%

† $p < .10$ (保護者来園行事あった>なかった)、

(*) $p < .05$, (+) $p < .10$ (保護者来園行事あった<なかった)

4. 考察

本研究は、保育者養成課程の学生への質問紙調査によって、幼稚園および保育所における実習における、子どもの保護者とのコミュニケーションや、保護者に関する情報取得の現状について調べた。わかったことの第一は、幼稚園や保育所における実習中の、保護者に関する様々な経験の頻度である。乳幼児の登降園時に保護者とあいさつを交わすことについては、半数以上の学生が実習期間中に毎日のように経験しており、9割以上の学生が少なくとも、期間中にときどきは保護者とあいさつを交わしていた。一方で、より踏み込んだコミュニケーションとして、あいさ

表9 未就園児の保護者来園機会とそれら保護者との話の頻度

未就園児の 保護者来園機会	話した 頻度	実習								全実習	
		幼稚園1		幼稚園2		保育所1		保育所2			
実習期間中の園庭開放											
あった	ほぼ毎日	2	4.1%	1	1.8%	0	0.0%	2	5.0%	5	2.6%
	ときどき	9	18.4%	2	3.6%	7	15.9%	3	7.5%	21	11.1%
	ない	38	77.6%	53	94.6%	37	84.1%	35	87.5%	163	86.2%
なかった	ほぼ毎日	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	ときどき	2	13.3%	0	0.0%	1	3.8%	1	7.7%	4	5.5%
	ない	13	86.7%	19	100.0%	25	96.2%	12	92.3%	69	94.5%
子育て支援センター併設											
あった	ほぼ毎日	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	11.1%	2	2.9%
	ときどき	3	17.6%	1	6.3%	2	10.5%	1	5.6%	7	10.0%
	ない	14	82.4%	15	93.8%	17	89.5%	15	83.3%	61	87.1%
なかった	ほぼ毎日	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%
	ときどき	4	13.3%	0	0.0%	3	8.6%	1	5.6%	8	6.8%
	ない	26	86.7%	33	97.1%	32	91.4%	17	94.4%	108	92.3%

つ以上の話を保護者としたという学生は、登降園時で30から40%程度、それ以外では10から30%と、半数に満たなかった。登降園時のあいさつが、ほとんどの学生が経験する保護者とのコミュニケーションであり、それ以上の話を保護者とした学生は、一部のとどまることがわかった。ただし、自らが保護者と話す経験をした学生は少ないとはいえ、実習施設の先生と保護者とが話すのを傍聴する機会があった学生は、実習機会により65から90%、全体としても74%に上っており、保育者と保護者とのコミュニケーションについて間接的に体験する機会を、多くの学生が持ったことがわかる。

また、保護者がいない場面で保護者に関する情報に触れる機会については、実習施設の先生から保護者について話を聞く機会を持った学生が4から5割程度であったが、それ以外の保護者情報への接触機会（施設と保護者とがやりとりする連絡帳を見せてもらうこと、職員会議等に参加して保護者に関する話を聞くこと）については、それをときどきでも経験した学生は、数%から20%程度にとどまっていた。この理由については個人情報保護の観点による施設の配慮などが推測されようが、本研究からは定かではない。さらに、低年齢乳幼児などの未就園児の保護者とのコミュニケーションについては、実習においてそれら保護者と話をする機会を持った学生は全体的に10%前後であり、直接の保育対象たる就園児以外の保護者と交流するに至ることは少ないようである。

第二に、これら保護者とのコミュニケーションや保護者に関する情報取得について、学生を指導する施設側の勧奨の有無についても調べた。乳幼児の登降園時の保護者とのあいさつについては、実習機会により4から6割の学生が、それを施設から勧められていたものの、その他のコミュニケーションおよび情報取得について施設から勧奨された学生は非常に少なく、4から6割の学生については、保護者に関するいずれの経験も施設から勧められていなかった。この結果については、施設からの勧めがどの程度明示的であったかによって、たとえ勧められていても学生側がそれを認識していないという可能性はある。しかし、著者の1人が実習先への訪問指導にあたった際の挿話として、面談した施設長から、学生が実習中であること、それがどこの養成校の学生であるかということについて、学生の個人情報という点から、保護者にどの程度知らせてよいも

のかわからないため、学生に対して保護者との接触を積極的に促すことが難しいという話が聞かれた。実習中の学生と保護者との接触に関する施設側の事情としては、上記の挿話のようなものに加え、保育の対象たる子ども自体とのかかわりについてまず経験すべきであるとの教育配慮や、あるいは未熟な実習生と保護者との接触による葛藤の危険を避けたいという思いなども想像されるが、保護者と学生との接触に関する施設側の態度については、将来の研究課題である。今回の調査において、登降園時のあいさつに関する施設側の勧奨の有無と実習生がそれを実際に経験した頻度との有意な関係は部分的にのみ見られ、勧奨が実習生の経験を促すという一貫した結果は得られなかった。とはいえ、保育者養成⁴⁾あるいは保育者の職掌⁵⁾⁶⁾として、保護者とのコミュニケーションが期待される現状にあって、養成校の側から実習施設に対して、実習におけるその経験機会をより提供してもらえるように働きかけることも必要であろう。

また、施設側の勧奨と関連して、保護者とのコミュニケーションの始動者に関する結果から、保護者へのあいさつについては、多くの場合学生の側から行われている一方、保護者とのそれ以上の話については、保護者からの始動も多いことがわかった。このことから、そして上述の挿話のような施設側の逡巡を斟酌するならば、養成校の側としてはむしろ、施設に対して、学生の実習実施に関して保護者に対する情報開示を積極的に行うように促し、保護者の側からも学生に対してより多く働きかけてもらえるような状況を作ることが必要と思われる。

保護者とのコミュニケーションに関して、施設の勧奨については学生の経験頻度への効果が認められなかった一方で、保護者が施設に来訪する頻度に関する要素である、就園児の施設への通園方法について、実習生の保護者とのコミュニケーションに関する経験頻度との関係が見られた。実習機会による違いはあるが、登園時のあいさつ、登降園時の保護者との話、施設の先生と保護者との話を聞くことなどにおいて、その施設での主な通園方法が、施設によるバス送迎である場合に比べて保護者による送迎である場合の方が、学生がそれらのコミュニケーションを実習中に経験した頻度が高かった。実習中の保護者来訪を伴う行事の有無については、実習生の保護者経験頻度との一貫した関係は見られなかった。このことから、通園形態を実習先施設選定の主たる基準とすることは現実的ではないものの、バス送迎が多く保護者の施設来訪機会が少ない実習施設にあっては、特に保護者との接触機会を意識して実習生に与える必要があると言えよう。同様に、未就園児の保護者の施設来訪機会の多寡と、それら保護者との実習生の接触経験頻度との関係についても検討したが、そもそも未就園児保護者との接触頻度が多くないこともあってか、これについては有意な効果は見られなかった。

実習における保護者との接触経験については、保育者養成課程や保育者としての職務の観点に加えて、学生の進路決定や保育職イメージの確立にとっても重要であると考えられる。保育者養成課程の学生が保育職入職に対して抱くイメージや不安の要素を調べた研究では、管理者側が新任保育者に対して期待する点とは必ずしも一致しないものの、保護者対応に関するものが多い⁷⁾。したがって保育者という仕事についてより理解を深めるといふ点からも、入職後に必要となる業務の1つである保護者対応について、何らかの経験を実習中にしておくことは有用であろう。全国保育士養成協議会による現職保育者および保育職経験者に対する調査⁸⁾では、保育職に感じた「やりがい」の内容について、「子どもの成長が感じられたとき」「子どもとの信頼関係が深まったとき」という子どもとのかかわりに関するものに次いで「保護者から感謝されたとき」「保護者と子どもの成長を喜び合えたとき」という保護者とのかかわりに関するものが多く、調査対象者の6割以上がそれを挙げている (p. 19) 一方で、離職理由において「保護者との関係」を挙

げた回答は3%未満(p.24)となっている。保護者とのかかわりが、保育者としての体験の中では肯定的側面であることがうかがわれ、学外実習においてもその体験が、保育職への動機づけを促進することが期待できる。

本研究は、保育者養成課程における幼稚園および保育所における実習中の、保護者に関する諸々の経験について、その生起頻度の実態を明らかにした。また、学生を指導する施設側が学生に対してそれらのうち何を勧奨しているのかについても調べた。さらに、通園方法が、おそらくは保護者の施設来訪機会の多寡を決定することで、実習における学生と保護者との接触に影響する可能性も示した。今後、施設側が、保護者と学生との接触、コミュニケーションについてどの程度積極的であり、それがどのような理由によるのかについて調査が必要である。さらに、今回一部明らかになった、学生と保護者とのコミュニケーションを促進する要因について、より包括的な検討が将来の課題である。

引用文献

- 1) 厚生労働省(編)：保育所保育指針解説書 フレーベル館、東京、2008
- 2) 文部科学省：幼稚園教育要領解説 フレーベル館、東京、2008
- 3) 厚生労働省：平成22年厚生労働省告示第278号、2010
- 4) 前掲3に同じ
- 5) 前掲1に同じ
- 6) 前掲2に同じ
- 7) 田中まさ子・仲野悦子：保育者となる学生のキャリア以降に関する一考察—学生時代のふり返りと保育職へのコミットメント—岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要、41；47-59、2009
- 8) 全国保育士養成協議会：指定保育士養成施設卒業生の卒後の動向及び業務の実態に関する調査報告書Ⅱ—調査結果からの展開—保育士養成資料集、52、2010

